

## 第3学年 社会科学学習指導案（歴史的分野）

日 時 令和6年5月31日（金）公開授業Ⅰ  
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
 3年B組 33名  
 会 場 2C2D教室  
 授業者 多田 忠 好

### 1 単元名 第7章 現代の日本と私たち

### 2 単元について

#### （1）生徒観

第3学年135名に歴史学習についての事前調査を行った。「歴史学習は、普段の生活やこれからの生き方に役立つか」という問いに対して、図1の結果が見られた。第3学年の生徒は、これまでHS（総合的な学習の時間）の中で、「地域課題の解決」の視点で盛岡、岩手、日本に視野を広げて学習してきた。特に、第2学年次に行われた第一次産業を体験する校外学習では、ロシアのウクライナ侵攻の影響から飼料が高騰し第一次産業従事者の経営を圧迫していることや、後継者不足により第一次産業従事者が減少していることを講話や体験を通して学んだ。第3学年での歴史学習を含めて、歴史を学ぶことは、世の中を捉え課題を発見する際に役に立つと認識している生徒が多いが、図2「歴史学習は、普段の生活に生かされているか」という質問に対しては、否定的な回答が多く見られた。このことから、得られた概念的知識をどのように生かしていくべきなのかを捉えきれていない生徒が多いと考える。また、社会で見られる課題を多面的・多角的に捉え考察する力はあるが、実践意欲にはつながっていないと考える。身近な地域の歴史的事象や先人たちからの学びを通して、世の中の課題を自分ごととして捉え、持続可能な社会を築く担い手となるような資質・能力を育成していきたい。

#### （2）教材観

戦後わずか19年で国際的スポーツの祭典「東京オリンピック・パラリンピック」の開催を実現させた日本。「高度経済成長」は1950年代に始まり、経済に限らず、日本社会の在り方、日本人の生き方や考え方を大きく変化させるものであり、現代に通じる日本社会の基盤が作られた時代であった。戦後間もない中でも人々が復興への強い想いをもち、並々ならぬ努力があったからこそ実現に至ることができた。しかし、大気汚染の拡大に関わる環境問題や産業構造の変化による農村部の人口減少など現代社会にもつながる社会的課題も見られた。変化の激しい国際情勢の中で、人々の生活や社会構造に急激な変化をもたらした高度経済成長期と震災からの復興や「2040年問題」など多くの社会的課題を抱える現代社会には多くの共通点が見られる。持続可能な社会を目指す上で、高度経済成長期の人々の想いや努力をもとに発展できたことやより良い発展を目指すためにはどのような知識や行動が必要なのかなど、多くの学ぶべきことがあると考える。

本単元は、中学校学習指導要領の歴史的分野C「近現代の日本と世界」を構成する中項目（2）現代の日本と世界を取り扱う。経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きく変化したことを理解させたい。急激な成長を成し遂げたと同時に負の側面も有した高度経済成長期の日本の様子を通して、現代と照らし合わせながら持続可能な社会をいかに維持・発展させていくべきか、自らが社会の創り手としての自覚をもって考えていけるように意識して授業を構想していく。本単元では、歴史的な見方・考え方の中でも特に「推移（変化・発展・継続の視点）」「比較（類似や差異、時代の特色）」「関連（背景・原因・結果・影響・理由の視点）」を働かせて、過去と現在のつながりを理解し、未来を、より良くしようとする態度を身につけさせたい。

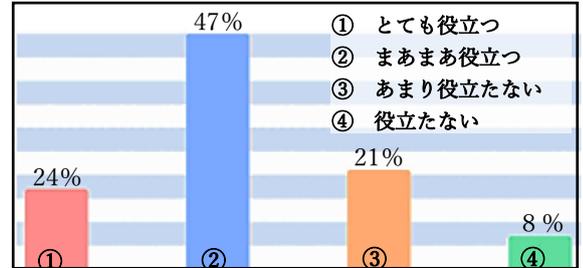


図1 歴史学習は、普段の生活やこれからの生き方に役立つと思うか。

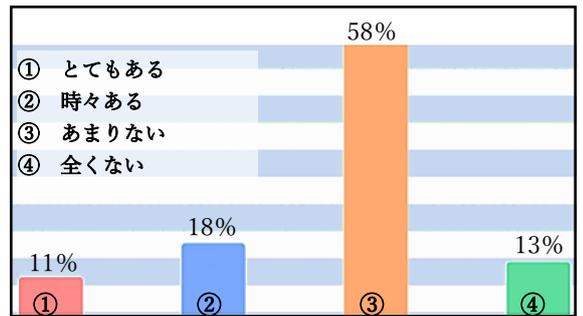


図2 歴史学習は、普段の生活に生かされていると思うか。

### (3) 教科研究との関わり

#### 研究の視点① 個別最適な学びと協働的な学び

単元を通して見方・考え方を働かせて問いの醸成を行う。学習支援アプリを活用して、資料を送付、時間を含めた見通しの提示を行いながら、予想の段階では立場や考えを瞬時に捉えさせるように活用する。また、資料提示を工夫し、生徒から出てきた視点を自ら選択させることで「学習の個性化」を図りたい。

本時では、高度経済成長期に見られた社会的事象が分かる資料をもとに検証させ、高度経済成長期の特色を捉えさせる。また、現代社会につながる共通点や課題に気付かせながら、どのように持続可能な社会をつかっていくべきか、「持続可能な社会づくりのための6つの構成概念」(図3)を生かした発問や展開を通して生徒に考えさせていきたい。単元を通して自ら社会参画に寄与する姿勢や持続可能な社会の維持・発展に寄与する担い手とするべく、単元や一単位時間の授業を構成していきたい。

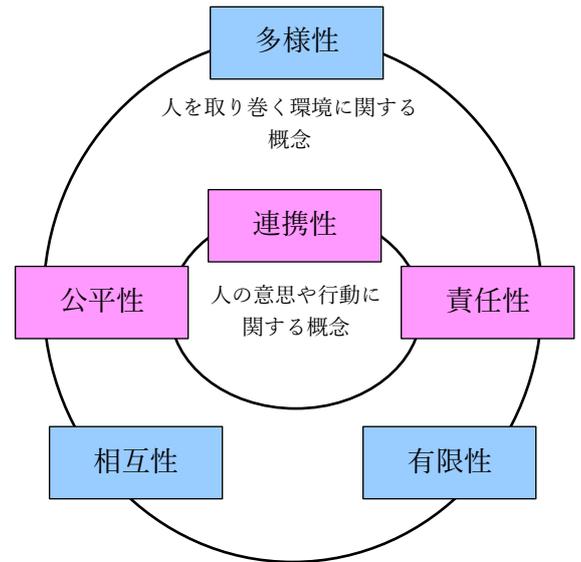


図3 「持続可能な社会づくりのための6つの構成概念」

(国立教育政策研究所より筆者作成)

### 3 単元計画

#### (1) 単元の目標

- ・高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなったことを理解する。【知識及び技能】
- ・課題解決のために必要な資料の選択や読み取ったことの言語化や主題図への表現を通して、解決すべき問いを明らかにできる。【知識及び技能】
- ・国際社会の変化や政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- ・これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方、持続可能な社会の実現を目指して社会への関わり方を選択・判断できる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・持続可能な社会を目指すための課題解決に粘り強く取り組む中で、自己の学びを調整したり、提案したりするなど課題の解決に関与できる。【学びに向かう力、人間性等】

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなったことを理解している。 ②課題解決のために必要な資料の選択や読み取ったことの言語化や主題図への表現を通して、解決すべき問いを明らかにしている。	①国際社会の変化や政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方、持続可能な社会の実現を目指して社会への関わり方を選択・判断している。	①持続可能な社会を目指すための課題解決に粘り強く取り組み、自己の学びを調整したり、提案したりするなど課題の解決に関与できる。

(3) 単元の指導計画と評価計画 (5時間) 評定に用いる評価 (●) 学習改善につながる評価 (○)

時	主な学習活動	指導の手立て	関連する評価の観点			・評価方法
			知技	思考	態度	
単元を貫く学習課題：第二次世界大戦後の国際情勢の中で、日本はどのように変化したのだろうか。						
1	<p>冷戦の開始によって、世界と日本はどのように変化したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習材を活用しながら、単元の課題を設定する。</li> <li>第二次世界大戦と比較しながら、冷戦の特徴を把握し、課題を設定する。その際、資料から冷戦の問題点を見つけられるようにする。</li> <li>冷戦によって日本はどのように変化したのか資料をもとに考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦の頃の様子と比較しながら世界はどのように変化したのかを捉えられるようにする。</li> </ul>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から第二次世界大戦と冷戦の違いを捉え、冷戦における世界と日本の変化を考察することができているかをワークシート等から評価する。</li> </ul>
2	<p>国際社会に復帰できたことで、日本はどのように変化したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本が国際社会に復帰できた背景を資料から捉えながら、課題を設定する。</li> <li>日本が独立した時の国内の背景について、資料をもとに考察する。</li> <li>当時の国民に着目し、再建への当時の国民の努力を資料をもとに考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当時の諸改革を理解し、現代とどのようなつながりがあるのか捉えられるようにする。</li> </ul>	②	①		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本が国際社会に復帰した背景を資料から読み取り、端的にまとめることができているか、当時の諸改革と現代のつながりを理解することができているかをワークシート等から評価する。</li> </ul>
3	<p>国際情勢の変化は、日本にどのような影響を与えたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦後の国際情勢の変化を資料から捉え、課題を設定する。</li> <li>「沖縄返還」や「日中国交正常化」を通して、近隣諸国との関係の変化について、資料を基に考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当時の様子と比較しながら、現代にもつながる課題を捉えられるようにする。</li> </ul>		①		<ul style="list-style-type: none"> <li>「沖縄返還」や「日中国交正常化」までの経緯を理解し、金利諸国との関係性の変化を捉えることができているかをワークシート等から評価する。</li> </ul>
4 本時	<p>高度経済成長は人々にとって良い発展といえるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高度経済成長期に日本の経済や科学技術は発展し、生活が向上したことを資料の考察をもとに理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の考察を通して、高度経済成長期の課題に着目して、現代とのつながりを捉えられるようにする。</li> </ul>		②		<ul style="list-style-type: none"> <li>高度経済成長がもたらした影響について、根拠をもって分類し、説明することができているか。また、考察したことをワークシート等から評価する。</li> </ul>
5	<p>現代文化にはどのような特徴があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当時の文化作品等に触れさせながら、課題を設定する。</li> <li>当時の文化を受け入れた国民の生活にも着目させる。</li> <li>マスメディアの発達はどのような影響をもたらすのか、資料をもとに考察する。</li> <li>単元のまとめを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに学習してきた日本の文化と比較しながら、当時の文化の特徴について捉えられるようにする。</li> </ul>	①		①	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化と国民の生活の関係性に注目することができているか、これまでの日本の文化の変容を捉えながら、現代文化の特徴を理解しているかワークシート等から評価する。</li> </ul>

#### 4 本時について

##### (1) 目標

高度経済成長期に、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことと、その背景にあった人々の営みを多面的・多角的に考察し、表現する。

##### (2) 評価規準

日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことと、その背景にあった人々の営みや現代につながる課題に着目して多面的・多角的に考察し、表現する。【思考・判断・表現】

##### (3) 授業構想

高度経済成長は、日本の経済や科学技術の発展により、国民の生活が向上したことを捉えさせた上で、様々な問題が発生していたことに資料の分類、考察を通して気が付けたい。また、一つの資料から多面的・多角的に考察できるように発問や追資料の提示の工夫を行っていきたい。

##### (4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 5	1 社会的事象と出会う。 ・動画「いわてアーカイブ (バスセンター)」を視聴し、身近な地域をもとに高度経済成長期の様子を捉える。 ・高度経済成長が実現できた背景を確認するとともに、高度経済成長という事象の意味を理解する。	・高度経済成長期のグラフをもとに経済が成長した様子とできごととも押さえさせる。
	2 1945年の終戦時の写真と1960年代の生活の様子が分かる写真をもとに、課題を設定する。	・戦時中や終戦直後と「比較」して「推移」を捉えさせる。
<b>高度経済成長期の日本はどのような様子だったのだろうか</b>		
展開 40	3 予想する。 ・導入で得られた知識やこれまでの既習事項を生かして予想を立てる。	・複数資料を関連させて検証できるように机間指導しながら支援する。 ○資料から根拠をもって説明することができるか。  ・学習支援アプリで集約し、学習の深まりや構成概念を生かしている生徒の資料を取り上げて発表させる。  ・「持続可能な社会づくりのための6つの構成概念」をもとに発問を行い、現代のつながりや思考を深めさせる。
	4 資料をもとに、検証する。 ・提示した資料を個人で検証する。 ・グループで各自が検証した資料を吟味する。	
	5 全体で交流する。	
	6 動画「いわてアーカイブ (集団就職)」を視聴し、当時の集団就職は高度経済成長にどのように関わっていたのか検証する。	
終結 5	7 全体で交流する。	
	8 追課題「高度経済成長は今の日本にどのようなつながりがあるのか」グループで考察し、全体で共有する	
9 本時の振り返りを記述する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【生徒の記入例】 最初は新しい家電製品も増え、生活が豊かになったことで、高度経済成長は日本に良い影響をもたらせたと考えた。しかし、都市部に人が集まり、第一次産業に関わる人が減ったことで過疎化が進み、今でもその問題が繋がっていることに驚いた。また、高度経済成長は四大公害によって苦しむ人が多くいるなど、良い影響だけではない。生活を向上させるためではなくより多くの人が幸せになる発展が必要だと考えた。</p> </div>	